

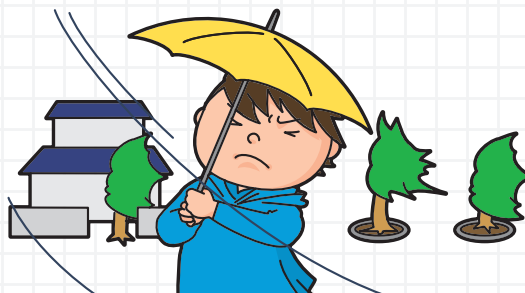
# 風水害の知識—台風と集中豪雨

愛知県では、台風や集中豪雨によるさまざまな被害が起きています。  
ここでは、台風情報の見方や、警報と注意報の種類など、基本的な知識についてまとめました。

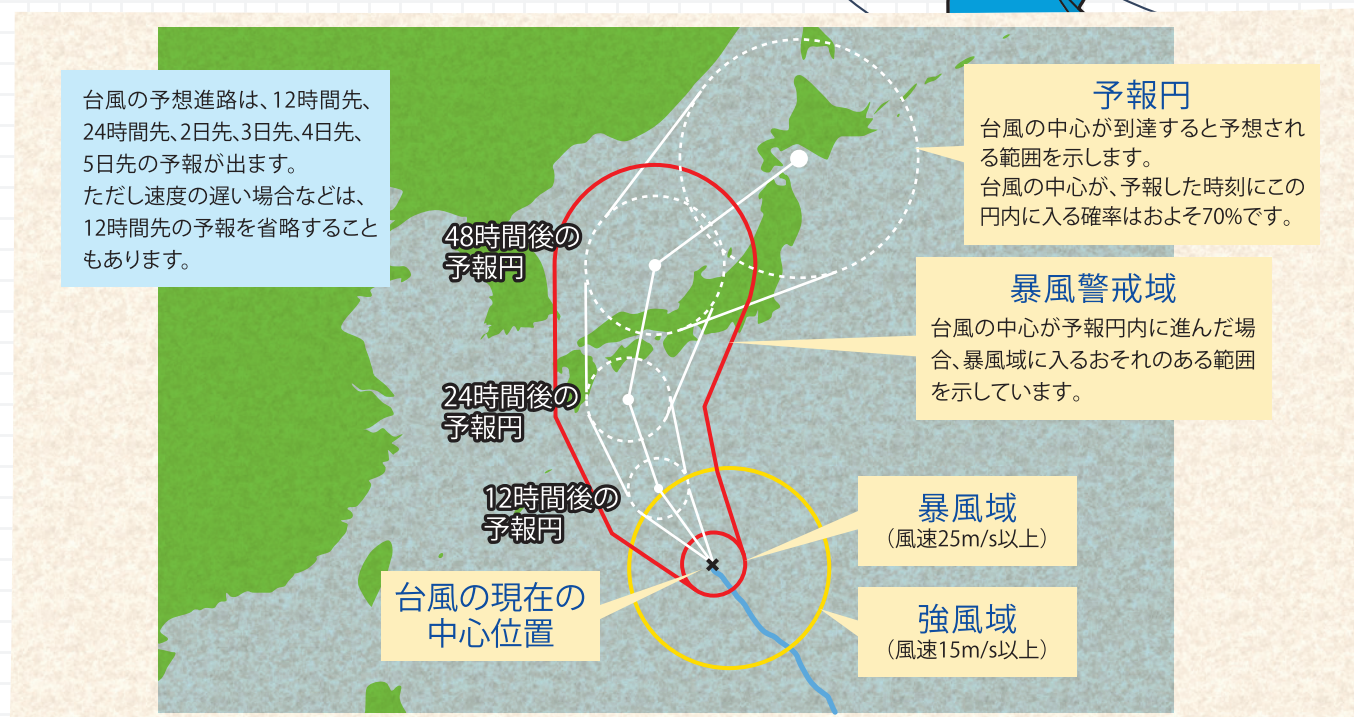
## 台風とは

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち中心付近の最大風速が17.2m/s(34ノット、風力8)以上になったものを「台風」と呼びます。

愛知県では過去に「伊勢湾台風」などの大きな台風がたびたび襲来しており、大きな被害にあっています。



## 台風情報の見方



## 台風の大きさと強さ

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、風速をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。大きさは、強風域(風速15m/s以上)の半径で、強さは最大風速で区分しています。

また強風域の内側で、風速25m/s以上の風が吹いていると予想される範囲を「暴風域」と呼びます。

台風に関する情報では、これらを組み合わせて「大型で強い台風」のように呼びます。

### 台風の大きさ

階級	風速15m/s以上の強風域の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

### 台風の強さ

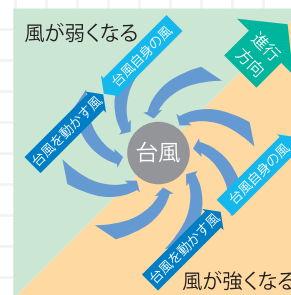
階級	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

## 台風による風の強さと吹き方

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、その風は上から見て反時計回りに吹いています。

そのため、進行方向に向かって右側の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため、風が強くなります。逆に左側の半円では、台風自身の風が逆になるので、右側に比べいくぶん弱くなります。

台風の眼に入ると風は急に弱くなりますが、眼の通過した後は風向きが反対の強い風が吹き返します。



風速10～15m/s	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。取り付けの不完全な看板などが飛び始める。
風速15～20m/s	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。ビニールハウスが壊れ始める。
風速20～25m/s	しっかり身体を確保しないと転倒する。飛来物で窓ガラスが割れる。
風速25m/s以上	立ってられない。屋外での行動は危険。取り付けの不完全な外装材が飛び始める。